

写真展同時企画 I
ワークショップ

未来を思考 するために。

●スケジュール(全3回)

1回目 2月8日(金)19:00~20:30

2回目 2月15日(金)19:00~20:30

3回目 2月22日(金)19:00~20:30

3月2日(土) 19:00 - 朗読会

ワークショップ参加者有志による朗読会を開催する予定です。入場無料でどなたでも参加出来るイベントです。

●ワークショップ参加費用

3回 4,500円(税込)

ワークショップに興味があり、日程に参加できる人であれば、朗読経験の有無などは問いません。どなたでも参加できます。また、全日程の参加が厳しいという方も2月8日(金)15日(金)は一回のみのご参加も可能です。22日は朗読会への準備も行われるので、一回のみの参加の受付は行えません。出来る限り柔軟に対応したいと思いますので、お気軽にお問い合わせください。

●参考図書

チェルノブイリの祈りー

ー未来の物語 (岩波現代文庫)

スベトラーナ・アレクシエービッチ (著)

松本 妙子 (翻訳)

ワークショップ参加者は「チェルノブイリの祈りー未来の物語」をご持参下さい。事前に読んで頂くことが望ましいですが、必須ではありません。

*会場、申し込み方法は裏面をご確認ください。

●ワークショップ講師 吉田美彦氏

大阪府高等学校演劇連盟、全国高等学校演劇協議会顧問、NPO法人 日本学校演劇教育会関西支部(2016年4月結成)事務局長、1969年高校入学と同時に演劇部に入学し、以来演劇活動を続け、1978年からは大阪府立高校教員として演劇部を指導。高校演劇全国大会に三度出場し、優秀賞、創作脚本賞受賞。



朗読ワークショップ

「チェルノブイリの祈りー未来の物語」の朗読を通して

2015年にノーベル文学賞を受賞したスベトラーナ・アレクシエービッチが著した「チェルノブイリの祈り」(岩波書店)では、チェルノブイリ原発事故を経験した子どもから老人まで、様々な立場の市井の人々の言葉がモノローグ的に語られます。朗読ワークショップでは、それぞれの言葉を反芻し、朗読という形で表現することによって、それらの言葉を体得し、原発事故が人々にもたらしたものの、そして、その先の未来について思考します。

チェルノブイリ事故から約10年を経て出版された著書は、長い年月をかけて行われた300にのぼるインタビューが基礎となっています。事故直後に現地入りしながらも、それをすぐに形にせず、推敲された言葉の数々は、今の私たちにとって、非常に大きな意味を持っています。

「日常」が様々な形で原発事故後の世界を見えないものとする中、チェルノブイリの言葉は、今一度、福島から遠くにいる私たちを強く引き戻します。